

委員の主な意見

➤ 動物園水族館は教育と研究に責任をもつ機関であり、動物と人間や社会の関係について人々とともに熟考するのが本質的な仕事である。JAZA では、園館が理念において緩やかな結びつきで共存することが、日本発の動物園の未来像を支えるだろう。日本的な動物園の未来像というのは、動物に対する人間の立ち位置を考えることである。動物園の未来を考えると、生きた動物がいて、その同じ空気の中に不特定多数の人間が混在するという、動的な空間の中でそこでの教育があり、文化の拡大があり、新しい真理の発見があると信じることができる。そうした活動の場を創り、どのような社会情勢においても、意義深い教育の在り方を追い求めるのが動物園水族館の責務である。（遠藤）

➤ 動物園水族館にはいろいろな役割があるが、社会状況は変化するので、それに対応して動物園水族館の管理や運営設定を考える必要がある。認証制度などを設けランク付けをするなどし、各動物園水族館がステップアップしていけるような状況をつくるというのは可能ではないのか。JAZA は、国際的な情報など小さい動物園水族館が知り得ないような情報やノウハウを提供するという役割もあるのではないのか。（親泊）

➤ コンプライアンスの問題を解決することと、倫理的な目標を設置することは非常に重要である。「いのちの博物館」はすごくいい言葉。こういう考え方をどう発信するかという媒体を具体的に考えていけばいい。（海津）

➤ 日本には昔から自然や命を大切にす素晴らしい文化がある。その啓蒙装置として動物園水族館は最適不可欠、消えてもらっては困る。特に次世代を育てる責務を担っていると思う。JAZA はこのスタンスで蓄積された知見を「いのち」をキーワードに情報化し、内外に発信すべきだ。持続的発展には人材育成が急務、「ライブワークがライフワークだ」というプライドを掲げた塾を開催し、会長自ら行脚をする。そこで生じたエネルギーを発信源とすることで教育と広報がリンクできると思う。「いのちの博物館」には未来があると直感している。社会が左脳合理的な考えから右脳感性的な考えに変化しつつあり、より重要な存在になるだろう。言葉としては「過去は新しい。未来は懐かしい」である。目指すは人と動物が豊かに暮らせる「懐かしい未来」であるべき。（数馬）

➤ 動物園水族館は何のためにあり、それを誰に訴えるべきなのか。4つの使命を見直し、それを統合するような一つのビジョンを明確にするべきである。未来を語るためには過去について徹底的に検証すべきであり、また一度作ってしまったおしまいでなく、それを検証していくシステム作りが重要である。これからの日本の動物園水族館を担う若手が、こうした議論を真剣に受け止める場、これから何をすべきなのかを考えるための勉強会をつくる必要がある。JAZA がどういうメディアを開発するのが非常に重要。情報に優先順位をつけて発信すること、そもそも動物園水族館が社会的にどういう使命を担っているかを発信することが重要である。個別に各加盟園は発信しているのだから、日本の動物園、日本の水族館というくりが不可欠なのではないか。日本には今これだけの動物園・水族館があるということを知り、その抱える問題の情報発信を大きな柱にすべき。（木下）

➤ 日本人の動物観を反映することが重要。これからは、動物福祉が重要なポイント。JAZA の倫理観がはっきりわかるような憲章を作るべきである。JAZA としての理念は高く掲げつつも、加盟についての垣根は低くすべき。JAZA への加盟の如何に関わらず、動物の収集や繁殖、動物福祉等について JAZA がリーダーシップを発揮すれば、JAZA の役割はますます増大する。単なる協議会でなく、全ての園、館の動物の輸入経路までもマネージすることによって、もっと強い枠組みになる。将来的には動物園水族館法の制定も視野に入れる必要がある。展示や情報発信の領域については、大きな動物園水族館では専門家を配置し、小さい園館については JAZA が配慮すべきである。海外に職員を派遣して、MBA を取らせるほど大胆な人材育成が望まれる。（林）

➤ 行動規範をきちんと作ってリードしていくのが JAZA の役割ではないか。基準を作って、それに合致する動物園水族館だけが大きな理念を掲げて、基準に満たない施設に対して無責任であってはならない。動物福祉の点で問題のある施設については、JAZA がそれを指摘し、外部に対してどんな問題があるのかメッセージを発信することが重要である。動物園水族館同士の動物の移動や交換などの調整や展示に関するコンサルティングも JAZA が担えるのではないか。人材育成については、本来的には動物園水族館ごとで実施する方が良くと思うが、各動物園水族館に指導をしていくのは JAZA の役割かもしれない。発信力の強化が必要である。好奇心や興味を持たせるといった意味ではバーチャルを活用することも重要である。（小菅）

➤ 指定管理者制度に移行した際に知的財産を含め飼育技術などの継承がおこなわれていないケースがある。そういうところを JAZA がフォローしていくべきではないか。また動物園水族館は国内外に積極的に情報を発信すべきである。（長井）

「いのちの博物館」の実現に向けて —消えていいの、日本の動物園と水族館—

広報戦略会議委員

遠藤秀紀	東京大学総合研究博物館教授	親泊素子	江戸川大学教授
海津ゆりえ	文教大学准教授	数馬宏喜	東京工芸大学非常勤講師
木下直之	東京大学教授	林 良博	JAZA 顧問、東京農業大学教授
小菅正夫	JAZA 会友、前旭山動物園長	長井健生	JAZA 会友、前碧南海浜水族館長

現在、動物園水族館をとりまく状況は非常に厳しいものがあります。社会状況の著しい変化の中で、既存の経営方式や管理・運営方法の見直しが求められている時代です。

また、動物園水族館の最大の特徴は、本物の「生きた」動物に直接、会って五感で体験できることですが、今、その根幹といえる安定した動物の収集・展示・繁殖の維持や、それを担う人材の育成が揺らいでいると思います。

こうした中で、わたしたちは、「現在の日本社会において、動物園水族館は必要か」を議論のスタートにして自由に討論をおこないました。

様々な発言がありましたが、現在の日本社会において、動物園水族館は「命」をテーマにした社会教育施設、いわば「いのちの博物館」である、ということは共通の意見でした。

- ◆ 動物園水族館は、多様な動物の命を維持し、繋いでいます。
- ◆ 動物園水族館は、生きた動物を公開し、命を感じる場を提供しています。
- ◆ さらに、動物の生活史などを通じて、命を考える場を提供しています。

「生きとし生けるもの」を想う心をはぐくむ日本の動物園水族館。理念だけではなく、それを実現するための行動が動物園水族館の職員、経営者、そして、市民にも求められるでしょう。“公益法人”となった日本動物園水族館協会（以下、JAZA と表記）は、その旗振り役とならなくてはなりません。関係者だけではなく、市民のみなさんの意見も聞きながら、日本の動物園水族館の進むべき道を示してください。それがかなわないならば、動物園や水族館は必要がないということになるでしょう。

2011年3月11日に起きた東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。わたしたちは「命」のはかなさと大切さを目の当たりにしました。そして世界中からのたくさんの温かい支援に感謝し、世界の中で生きていることを実感しました。ここに、改めて「命」をキーワードにした「いのちの博物館」としての日本の動物園水族館の未来を見据え、以下のとおり提言をいたします。

未来の日本の動物園水族館が「命」を感じ、「命」を繋ぎ、「命」について考える場所として日本社会の中だけでなく、国際的社会の中にもしっかり位置づけられていることを願います。

2012年（H24年）5月24日



提言その1

JAZA は日本の動物園水族館の進むべき 明確な将来像を示すべきである

JAZA は、日本社会における動物園水族館のあり方・ビジョンを示す必要がある。ビジョンには、日本人の自然観や動物観、倫理観も反映させつつ、世界における日本の動物園水族館の役割や日本社会における動物園水族館の役割を明確に示すべきである。さらにはビジョンを踏まえた「憲章」を策定するべきであろう。ビジョン及び憲章は社会情勢を鑑み、定期的に検証をし、見直すことも必要である。



提言その3

JAZA は日本の動物園水族館の連携を 強化すべきである

JAZA は、動物園水族館の発展のためにも、生物多様性保全などに関する連携を強化すべきである。また、今後ますます動物園水族館の経営は多様化していくと思われるが、いかなる場合においても健全な動物園水族館経営がなされるべきであり、JAZA はその実行にあたって、リーダーシップをとるべきである。



提言その2

JAZA は動物園水族館が持つ倫理や福祉について より高い行動規範を広めるべきである

JAZA は、ビジョンに基づき、世界に通じるより高い倫理規定や動物福祉に関する基準、そして行動規範の制定について検討するべきである。行動規範を示すことで動物園水族館のコンプライアンスを高め、日本の動物園水族館が国際的にも高い水準で動物福祉に配慮していることをアピールできるだろう。



提言その5

JAZA は情報発信を強化すべきである

JAZA は、連絡調整窓口としてだけでなく、日本の動物園水族館で蓄積された飼育技術や、日本的な動物園水族館のビジョンや取り組みなどを国内外に向けて強く発信するべきである。こうした情報発信は、地球レベルの野生生物保全戦略に対して、日本の動物園水族館の貢献度を増すきっかけともなるだろう。



提言その4

JAZA は動物園水族館における人材育成を 進めるべきである

JAZA は、健全な動物園水族館運営を維持し、推進するために、日本社会における動物園水族館のあり方を理解し、行動できる人材を JAZA 内外で育成すべきである。JAZA は様々な形式で、議論の場、理解の場、学習の場を設定し、提供していく仕組みづくりを進めるべきである。